



# 谷原小だより 12月号

平成 23 年 12 月 1 日  
練馬区立谷原小学校  
校長 眞瀬 敦子

## 師走に向かって

校長 眞瀬 敦子

東日本大震災という、我が日本にとって物心両面で忘れることのできない大災害があった平成 23 年も、早 12 月。子供達の登校も、残すところ今日を含めて 16 日のみとなりました。未来の日本を背負って立つ子供達を育てている私達は、この災害がもたらしたものを風化させることなく、より良い未来へ繋げていかなくてはならないと心から思います。

その子供達の創作力を結集した展覧会が先日開かれ、いつもの体育館が、魔法にかけられたようにきらきらした創造の喜びに溢れる空間に変身しました。工事現場の塀にも楽しそうに飛び跳ねている 2 年生の等身大のお人形がずらっと並び、お客様を出迎えました。

たった二日間で終わらせてしまうのがもったいないようでしたが、撤収する前に、兄弟学年で互いの作品を説明したり見合ったりして、先月の学校便りでお伝えしたような、温かい交流が全学年で行われました。

お互いが交換した鑑賞カードを見ると、「ぼくも 3 年生の時同じものを作ったけれど、〇〇君のような工夫はできなかったよ」とか、「〇〇ちゃんの作った動物は、何だか〇〇ちゃんに似ていて可愛かったです」といったような、具体的且つ優しさに溢れたコメントが多く、交流が確実に子供達の中に根づいてきていることが分かり、大変嬉しくなりました。



嬉しいといえば、26 日は展覧会と平行して育成委員さんや PTA の皆さんによる餅つきもあり、子供達にとっては大変嬉しい土曜日になりました。

餅米が段々にお餅になっていく様子や、谷原伝統の“四テコ”という搗き方を見せたり、搗きたてのお餅のおいしさを全員の子供に味わわせたりしたくて、無理を承知でお願いしたのですが、それを育成委員さん全員でやりくり算段して叶えてくださったのです。

子供達は蒸し上がった餅米の匂いに鼻をひくひくさせたり、谷原餅つき唄が響く中(増島兼吉さんの生の歌声が聞けなくなったことは何とも寂しい限りですが)、四テコのリズムに手拍子を打ったり、実際に持ってみた杵の重さによるよろしりしながらも、楽しい一時を過ごし、あんこときなこのおいしいお餅をいただいてお腹も心も幸せいっぱいになりました。

12 月 16 日には谷原っ子祭りがあります。そのための学級での話し合いや交流がもう始まっています。教える上級生とその話に耳を傾ける下級生との、とっても素敵な顔がまた、あちこちで見られるようになりました。

今は読書旬間でもあります。今年が目玉は“親子読書”。きっとご家庭でもお子さんとお家の方との、信頼あふれる素敵な笑顔が広がっていることと思います。

## 〈改築工事だより〉

基礎工事が終わり、一部の地下を掘ったり土台作りをしたり、動きがダイナミックになってきました。来年の今頃にはもう校舎が完成しているかと思うと、不思議な気持ちになります。

